

登呂博物館と連携した 「登呂の田んぼの生き物観察会」



キーワード

登呂博物館・登呂遺跡・田んぼ・生き物観察

〇取り組んだきっかけ

2013年に、登呂博物館の館長より、「登呂遺跡はこれまで社会科関連のイベントが多かったが、自然が豊かな場所であり、理科の生物関連の催しも行いたい」とのお話をいただきました。それを受けて、登呂に生息する生き物に焦点を当てた「登呂の田んぼの生き物観察会」を企画することになり、それ以来、毎年恒例のイベントとして開催されています。

〇活動の目的

田んぼの生き物観察会は、いにしえから続く生物の営みや自然の魅力に触れ、子どもたちにその楽しさを知ってもらうことを目的としています。

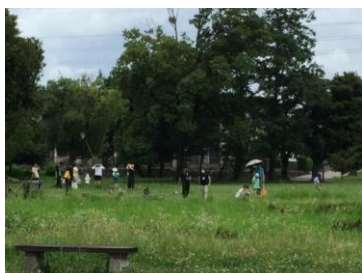
さらに、将来教職を目指す教育学部初等教育課程の学生が、観察会で司会進行を務め、子どもたちをサポートすることで、地域に貢献しつつ、子どもたちとの直接的な関わりを経験し、学びを深める良い機会となります。

〇具体的な内容

2023年7月15日(土)、登呂遺跡で小学生を対象にした「田んぼの生き物観察会」を開催しました。応募してきた10名の小学生を対象に、登呂遺跡内の水田の水路に生息する生き物を採集し、観察、スケッチを行いました。その後、図鑑で生き物の名前を調べ、最後に発表会を行いました。このイベントには、久留戸ゼミの学生を中心に、初等教育課程理科専攻の8名が参加し、小学生をサポートしました。環境指導員の守屋司子先生からもご指導をいただきました。

最初にプリントを配布し、学生から観察会の説明や採集時の以下のような注意事項を話してもらい、採集を始めました。

- ・田んぼや細いあぜや水路に入らない(稲に触らない)。
- ・あみをふりまわさない。ふざけない。
- ・生き物の命を大切する。
- ・えさになる生き物をいっしょに入れない。
- ・こまめに水分をとる。



少し雨が降りましたが、概ね晴れ、1時間ほど登呂遺跡の田んぼの水路で、タモを使って生物採集を行いました。最初は戸惑っていた子どもたちも、段々と慣れてきて、歓声をあげながら取り組んでいました。館内に戻り、生物のスケッチを行い、図鑑で名前を調べました。カエルやオタマジャクシ、アメリカザリガニ、ジャンボタニシ、ドジョウ、アメンボなどを採集しました。その後、学生のサポートを受けながら、一人ずつ発表を行い、スケッチを遺跡の地図に貼り付けて、どこにどんな生物がいるかを示す生き物マップを作成しました。その後、学生が生物について説明し、外来生物の話も交えました。最後に、基本的には生物を放流して、元の場所に戻してもらいました。生物を飼う場合は、責任を持って行うように話しました。



〇期待される効果

事後アンケートでは、子どもたちからとても楽しかったという感想をいただきました。普段生き物に触れる機会が少ない子どもたちにとって、様々な生き物がいること、生物多様性について学ぶきっかけとなりました。生き物についてのお話では、他から生物を持ち込むと生態系が壊れてしまうなど、外来生物についても学びました。発表では、低学年の子どもたちは前に出て発表するのが少し大変そうでしたが、学生がうまくサポートしていました。

また、学生たちも「子どもたちと協力して生物観察を行い、非常に良い経験になりました」と感想を述べていました。このような機会は学生にとっても、子どもたちとの関わりが持てるだけでなく、自分たちの学びにも繋がると考えます。特に4年生は、卒業後の4月から教員になることを意識しながら、子どもたちに接していたように思います。

このイベントは、翌日の静岡新聞にも掲載されました。

久留戸 涼子

教育学部・初等教育課程
教授

連携先

静岡市立登呂博物館